

# 格助詞「の」

## ◇意味

### ① 主格 「～が」

：接続している語が「主語」であることを断定する役割

例) 白玉か何ぞと人の問ひしどき露と答へて消えなましものを（伊勢物語）  
(白玉か何かと人が問うたとき、露だと答えて消えてしまいたかったのに)

### ② 連体格 「～の」

：「の」の下にある体言(名詞)を修飾する役割

例) いとあやしく、潮海のほとりにて、あざれあへり。（土佐日記）  
(とても不思議なことに、海のそばでふざけあつている。)

### ③ 同格 「～で」

：前の名詞と後ろの名詞が同じ対象を指していることを示す役割

例) 白き鳥の嘴と脚と赤き、鷗の大きさなる、水の上に遊びつつ、魚を食ふ。（伊勢物語）  
(白い鳥で嘴と脚とが赤く、鷗の大きさの鳥が、水の上で遊びながら、魚を食う。)

※ 「同格」は体言や連体形に接続し、下は連体形が続くことがほとんど

### ④ 代用(準体言) 「～のこと」

：体言(こと、もの)を省略したもので、体言の役割

例) 草の花は、なでしこ。唐のはさらなり、大和のもいとめでたし。（枕草子）  
(草花は、なでしこが良い。唐なでしこはいうまでもなく、大和のも大層立派だ。)

### ⑤ 連用格 「～のような」

：比喩的な意味を表す役割

例) 世になく清らなる玉の男皇子さへ生まれ給ひぬ。（源氏物語）  
(世にいないほど清らかで美しい玉のような皇子までもがお生まれになつた。)

## ◇識別

- ・ 基本的には文脈で判断する
- ・ ほとんどが、主格、連体格、同格で、代用と連用格はほとんど主題されない